

2月号

いっしん

今日もまた
神のみかげに
われありと
思へば梁し
喜びの春
安武松太郎師
御款

第313号

平成23年(2011年)

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市加治木町朝日町130 発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-62-2895
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp ホームページ http://www.7a.biglobe.ne.jp/~konkokajiki

甘木親教会初代教会長

安武松太郎大人六十年祭

平成二十三年二月四日(金)



安武松太郎大人ご夫妻 昭和24年頃

加治木教会
布教六十年記念大祭
平成二十三年
五月二十九日

「私
いたたく」安武松太郎師

(矢野政美著)より

「恩師に、私も夫婦の進むべき道についてお伺いになりましたのは、昭和二十二年三月のことでした。その意向を申し上げ、応接間で堅くなつて夫婦でお待ちしておりますと、廊下にスリッパの音が聞こえ、スツと襖が開いて、恩師がお入りになりました。るとみ教えを頂きました。」

その中で、「矢野さん、この世の中には職業という職業はたくさんある。お道の御用は決して職業ではないが、仮に職業ということになれば、この世にこれほど尊い職業はまたとあるうかと思う。それは、例えば商売であれば、売る方は少しでも高く売りたいと思ひ、そのとり高く売れば喜ぶ。ところが、それを買った方は高買ひしたと悔や

安武松太郎大人六十年祭関係…… P1～2
甘木親教会年頭参拝・鏡開き …… P3

青年会・若婦人会 …… P4
記念祭奉迎感話発表 …… P5～6
教会行事 …… P8

むである。そこで、一方が喜べば一方が悔やむ、片方が助かれば片方が助からないことがたくさんある。それに比べてお道の御用は人の助かることを願うことなのである。人が助かるということは、神様が一番お喜びになり、また、助かった人が喜び、自分自身もそれによって立ち行



安武松太郎大人ご家族と修行生 昭和24年頃

かせて下さる。即ち、神様と人と自分と三位一体となって助かるのである。あなたは、お母さんが三十三才の折、九死一生のおかげを頂いてその後生まれられたのである。今日まで矢野の家におかげを蒙って来た事実を、そのまま人に伝えるだけでも、結構御用に使っていただけから決心をなささい」と、強い口調で仰せになりました。

私ども夫婦は、この恩師のお言葉を頂いて、足取りも軽く家へ帰りました。

(中略)私どもが、お道の御用に立たせていただきますことを、誰よりも一番喜んでくれましたのは母でありました。

いよいよ準備を整えまして、昭和二十二年四月三日、親教会の一修行生として入所させていただきました。」

昭和二十二年三月前述のような甘木親教会初代教会長安武松太郎親先生のお言葉で、故政美親先生はお道の御用におかげを頂くことを決心なされました。

爾来六十四年、安武松太郎親先生がご帰幽され、さらに間もなく政美親先生が加治木にご布教されて六十年になります。

安武松太郎親先生のご生前中はもちろんのこと、ご帰幽された後もどれほどのお祈りをかけられてあるかおよびもつきません。

まさに安武松太郎親先生は、命をかけご生涯をかけられて祈り通されて、その葉末に加治木教会があるのですが、私たちはどれほど、そのご恩を知りご恩に報いることができるでしょうか。

我が身我が家、いわば自分さえ助かれれば後は知ったことではないと、禽獣にも劣るような生き方とならぬよう、道理に合う万物の霊長らしい、恩を知って恩に報いる生き方ができて行くよう努めさせていたただかねば相済みません。

(教会長)

甘木親教会 年頭参拝

例年にならない雪化粧に始まったお正月の雪が、庭先から消えかかった一月三日、甘木親教会へ年頭参拝をさせていただきました。



お広前は参拝者が一杯でお届けの列も長々と続くほどでした。御結界にお座りになられてあります。



度のお願い、また今年も記念祭をお迎えしますので、そのお願いを申し上げます。

続いて、お広前で行われていました信奉者総会の感話発表、さらに親先生のご教話を拝聴させていただきました。

その後に行われる恒例の御歌の福引も引かせていただきました。福引で頂いた初代親先生の御歌の葉を参拝者の皆さんは景品と共にありがたそうに持ち帰ってありました。きっと御歌を今年の信心の指針とされるのでしよう。

奥津城にも参拝させていただきました、奥津城にほど近い矢野家（本家）にも伺い、霊様はじめご親族の方々に新年の御礼・ご挨拶を申し上げてまいりました。

した安武道義親先生に新年のご挨拶を申し上げ、旧年中の御礼と新年

鏡開き

一月十日の月例祭では、成人感謝祭が併せて仕えられ、ご祭典・教話後、お広前のストーブなどで神様のお下がりのお餅を焼き、アツアツのぜんざいに入れてみんなで頂かせていただきました。



神様に供えられたお下がりを頂き、お正月気分を区切りをつけて、元気のある家庭生活・仕事にスタートが切れないでしょうか？

記念祭奉迎

感 話 発 表

一月二十三日に仕えられた月例祭後、記念祭奉迎 感話発表が仕えられました。

発表者は、大山健一さんと、安楽郁子さんでした。二人とも若者らしい新鮮な良いお話で、後の共励会も和気あいあいの雰囲気でした。元気がみなぎった共励会となりました。



感話のテーマは

「原点・あゆみ・これから」

「原点」とは、わが家が入信した頃の状況やきっかけ。

「あゆみ」とは、生まれてから今日までに出あった、大変だったこと」「有難かったこと」。

「これから」とは、これからのように自身の信心を進めて行きたいか進めるべきか。



青年会

一月二十三日(日)

越塚勇人という方の『命の授業』という教育講演のビデオを鑑賞して、信心の研修をさせていただきました。元は体育の教師。スキーで転んで首の骨を折り、全身が動けなくなった絶望の淵から、人生再起のきっかけとなった思いをお話になっておられます。有難い尊いお話でした。



まったく動けなくても「花」のように生きることが出来るかもしれない

いつも「笑顔」でいると決めました
どんなことにも

「ありがとう」を
言おうと決めました

そしたら…
まったく動かなかった手足が
だんだん
動き始めてくれたんです

…
「当たり前」だと思っていたことに
「幸せ」と「感謝」を
見つけました

(越塚勇人)

若婦人会

一月十三日(木)

『金光新聞』の「信心真話」をテキストにしてお茶を頂きながら信心の勉強とおしゃべりをさせていただきました。

若い奥様方、楽しい若婦人会にみんなで盛り上げて行きましょう！



「これって普通じゃない!？」

「履歴書記入は、A4版の広い方記入履歴は中学卒業以降でなく小学校入学から、筆記具は万年筆、インクは黒、その会社が必要としていそうな資格を持っていればそれを資格記入欄の一番上に…」

「これって普通じゃないのです。履歴書はB5版が一般的で、記入履歴は中学卒業以降、筆記具はボールペン、資格は取得困難な順に列記して…」

「これがごく一般的な履歴書です。しかし、就職指導のエキスパートという方は、前の方を厳格に指導されるそうです。」

「前の方は、一般的に そんなことまで必要でないよ。こんな手のかかる面倒なことと思えることですが、そこが大切なポイントです。」

「就職難と言われる今の時代は、履歴書審査の段階で、審査される方の眼に止まるだけの内容であるか否かというところが、合否の分かれ目となることが多いということです。」

「いわば、履歴書一枚にどれだけ真剣に誠実に、就職に取り組み仕事に対処す自分であるかをアピールできる否かの差を教えて下さってあるわけです。」

「履歴書一枚にどれほどの「実意」を込められるかどうかということではないかと思えます。」

「教祖様は、農業をされておられたとき、年貢に出される米は「盆よりの米」と言われ、お盆の上でゴミや屑米を選別したように美しい米で、一番上等の米とみなされてあったそうです。」

「教祖様は、年貢米を人並み以上に心を込めて作り納めてあったわけですね。そのような実意な姿勢を、年貢として納めるお米だけに注がれてあったはずがありません。」

「寒中一斉信行期間」にも『金光大神』を勉強させてもらいましたが、読み進めて行きますと、教祖様はいつも常人には真似も想像もできないご辛抱をされ真心を尽くされてあることがわかってきます。」

「だからこそ、神様の眼に止まられ見込まれて行かれたのではないですよ。うか。」

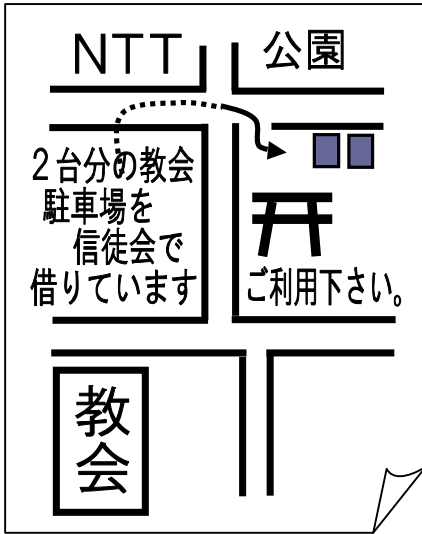
「親教会の初代安武松太郎先生のご教話集を読ませていただきますと、神様を「絶対に敬う」「絶対に信ずる」「絶対に感謝を奉る」心が深く厚く、さらにどんなに悲しく辛いことが起こってきてもその心が揺るがれないとがわかります。」

「そのような神様の頂き方も、常人には容易にできないことで、相当に真心が厚く強い信念がなければ真似はできません。」

「私たちは恵まれ過ぎた時代に育ち生活に馴れ「これって普通じゃない」と思うことは、いとも容易に敬遠することに馴れ切っています。」

「気をつけなければなりません。普通じゃない心尽くしをさりげなくできるようになりたいものです。」

(A)



訃報

花田ハル子氏が十二月十二日(89才・始良市脇元)お国替えされました。霊様のご安心とお道立てをお祈り申し上げます。

あしあと

加治木教会行事記録

- 1月
- 1(祝) 元日祭 正午
 - 3(月) 甘木親教会年頭参拝
 - 9(日) 斎掃御用 10時
 - 10(月) 生保光月例祭・霊祭10時半
大神様
 - 13(木) 若婦人会 13時半
 - 14(金) 連合会 執行部会
 - 16(日) 甘木野口家霊祭
 - 20(木) 22(土) 少年少女会連合本部 理事会
 - 22(土) 斎掃御用 10時
 - 23(日) 月例祭 共励会 13時半
 - " 西鹿兒島教会報徳祭 12時
 - " 青年会 リーダーMミーティング 20時
兼 青年会
 - 28(金) 龍笛練習
 - 30(日) 連合会定期総会 10時(鹿児島)
兼 教会
 - 31(月) 斎掃御用 10時半

ご霊神様のおまじり

二月 (敬称等略)

- 桐野ケサノ之霊神 (1日)昭和9年
 - 桐野秋子之霊神 (3日)昭和7年
 - 中村照子之霊神 (4日)平成15年
 - 吉屋安光之霊神 (8日)平成1年
 - 川畑正徳之霊神 (12日)昭和23年
 - 矢野政美之霊神 (12日)平成11年
 - 小屋敷慶二之霊神 (14日)平成4年
 - 川畑助太郎之霊神 (18日)昭和23年
 - 最勝寺剛藏之霊神 (18日)昭和47年
 - 平島タキノ之霊神 (18日)昭和52年
 - 福山一間之霊神 (20日)平成16年
 - 川畑幸正之霊神 (21日)昭和21年
 - 中村正義之霊神 (21日)昭和21年
 - 野口ミヤノ之霊神 (22日)昭和60年
 - 永原初男之霊神 (22日)平成22年
 - 平島房代之霊神 (24日)昭和6年
 - 中島武夫之霊神 (24日)昭和50年
 - 桐野ケイ之霊神 (25日)昭和2年
 - 前田京子之霊神 (25日)平成14年
 - 山下ヒサエ之霊神 (28日)平成2年
 - 宮内ミツル之霊神 (28日)平成13年
- 〔先祖のご霊神様の、現世・幽冥(かくりよ)でのお働きあつての今日の私たちであります。立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。〕
教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。

二月四日(金)

出発 午前七時半 帰着 午後六時頃の予定

甘木親教会初代教会长

安武松太郎大人六十年祭 参拝

二月十七日(木)

甘木親教会 報徳祭 参拝

出発 午前七時頃 帰着 午後六時頃

二月二十七日(日)

午前十一時より

加治木教会 (前日御用奉仕)

報徳祭 奉仕

※「祭典・教話・後直会。」

講師 志布志教会长 馬渡 三郎 先生

報徳祭

二月十三日(日)

上荒田教会 報徳祭 午前十一時より

二月二十日(日)

多良木教会 報徳祭 午前十一時より

教会行事

2月

- 1(火) 報徳月例祭 10時半
 - 4(金) 甘木親教会 初代六十年祭
 - 9(水) 斎掃御用 10時
 - 10(木) 月例祭10時半
 - 11(祝) 少女少女会 若婦人会 13時半
：(少)チヨ「作り」大会作品作り
 - 12(土) 矢野政美大人立日「祈念」10時
 - 13(日) 上荒田教会 報徳祭 11時
 - 15(火) 16(水) 教務センター会議
 - 17(木) 甘木親教会報徳祭 11時
 - 18(金) 甘木親教会「同蓋会」
 - 20(日) 多良木教会 報徳祭 11時
 - 21(月) 斎掃御用 10時
 - 22(火) 月例祭・共励会 13時半
 " 青年会「ウイターミ」兼 青年会 20時
 - 23(水) 24(木) 教区女性教師会議
 - 26(土) 御用奉仕
 - 27(日) 加治木教会 報徳祭 11時
 - 28(月) 斎掃御用 10時
- 少年少女会 青年会 若婦人会は、都合により日程を変更することがあります。随時連絡しますのでお気を付けて下さい。

3月

- 1(火) 報徳月例祭 10時半
- 3(木) (甘木親教会月参拝日)
- 9(水) 斎掃御用 10時
- 10(木) 月例祭10時半
- 12(土) 13(日) 典楽会
- 15(火) 若婦人会 13時半
- 19(土) 斎掃御用 10時
- 21(祝) 春季霊祭 10時半
- 22(火) 月例祭・共励会 13時半
 " 青年会 20時
- 24(木) 26(土) 甘木親教会「教会子弟の集い」
- 26(土) 28(月) 甘木親教会「交歓会」
- 31(木) 斎掃御用 10時

三月十二日(土)・十三日(日)

午後二時より 午前十時より

典楽会

※十三日は主に初心者 鹿児島教会にて 会費・昼食費など一〇〇〇円 琴・龍笛(横笛)・笙・筆簾